

モンテJ1昇格



発行所
山形新聞社
〒990-8550
山形市旅籠町2-5-12
電話 代表023(622)5271
©山形新聞社 2008

号外



モンテディオ山形

1984年、NEC山形サッカー同好会として発足。87年、「べにばな国体」(92年開催)のサッカー競技承引企業に指定される。チーム強化のため、ヤマハ発動機(現ジュービロ磐田)

から山本昌邦氏を臨時コーチに招聘(しょうへい)。89年に東北地域リーグ昇格。べにばな国体(成年1部)は6位。93年に全国地域リーグ決勝大会準優勝、JFL昇格決定戦を制し

た。クラブチーム化の機運が高まり、96年、県民投票でチーム名を「モンテディオ山形」に改称。名前はイタリア語の「モンテ」(山)と「ディオ」(神)の造語。98年、県や県サッカー協会

が中心となり「社団法人県スポーツ振興21世紀協会」を設立し、99年のJ2創設と同時に参戦した。公益法人が運営するのはJリーグで唯一。

挑戦10年 悲願かなう

3-2 愛媛に劇的逆転



イレブんに指示を出し鼓舞する小林伸二監督

サッカーJ2のモンテディオ山形は30日、愛媛県のニンジニアスタジアムで愛媛と対戦、3-2(前半1-2)で劇的な逆転勝ちを収め、J1昇格を決めた。リーグ参戦10年目。千載一遇のチャンスをつかみ、悲願を達成した。

残り2試合で3位仙台との勝ち点差は5。この日、仙台が引き分け以下なら、山形は負けても昇格が決まる。だが、ここまでから勝ち点の計算はいらない。選手、スタッフ、サポーター、山形にかかわるすべての人々の思いは同じだ。「勝って昇格をつかみ取る」

ニンジニアスタジアムには、クラブの歴史が書き換えられる瞬間に立ち会おうという熱い思いの山形サポーター300人以上が駆け付けた。陽光が降り注ぐ愛媛の空に山形ゴールが響く中、午後1時4分、山形ボールでキックオフ。前半10分、DFレオナルドが相手FWを倒しイエローカード。ゴール正面で与えたFKを直接決められ先

制を許した。これが山形に火をつけた。直後、ゴール前でパスを受けたFW長谷川悠が振り向きざまにシュートを決めて同点に追い付いた。だが、ホーム最終戦での勝利に燃える愛媛も譲らない。31分、再びFKからゴールを決められ1-2。同44分の豊田陽平のシュートはバーを直撃した。後半は山形ペース。18分長谷川、20分豊田と惜しいシュートが続く。高まる得点の予感。43分、石川竜也が芸術的なFKを愛媛ゴールに突き刺した。そしてロスタイム。豊田が値千金の「昇格ゴール」をたたき込んだ。歓喜、恍惚(こうこつ)、放心、感涙…。誰もが願ったただ一つの結末。J1への扉が開いた。



J1昇格を懸け、愛媛と激しい戦いを繰り広げる青いユニホームのモンテディオ山形イレブン
=愛媛県・ニンジニアスタジアム



敵地へ乗り込み声援を送るモンテディオ山形サポーター